



渚江中学校だより

令和元年度

第4号

9月6日(金)

教育目標 : 『よく考え 自ら学ぶ人』・『正しく判断し 実行する人』
『礼儀正しく 情操豊かな人』・『心身ともに健康な人』



渚江中HP

感謝の気持ちを表そう

私が教師に成り立ての頃、先輩の先生との間でこんな会話がありました。

先輩「先生のクラスの〇〇君。昨日、ケガをしたんですって？」

私「はい。部活中に転んで足をすりむいたので、保健の〇〇先生に手当をしてもらいました」

先輩「そう。大きなケガじゃなくて良かったけど……。〇〇君は、今日、〇〇先生に昨日のお礼に行ったかしら？」

私「あっ。まだ確認していません。この後確認して、行っていないようならすぐにお礼を言いに行くよう話をします」というような会話でした。

実際、〇〇君は手当をしてもらったお礼を言っていなかったなので、すぐに言いに行かせました。

恥ずかしながら、私自身は「お礼を言いに行かせる」ということにまったく気がいっておらず、あの先輩の一言がなければ〇〇君は何も言わずに終わってしまったかもしれません。〇〇君にとっては、人として大切なことを学ぶチャンスを見失ってしまったかもしれないということです。

誰かに何かお世話になったらお礼を言うということは、私たちにとって大切なことであり、当たり前のことでもあります。しかし、この美しい習慣が、最近、薄れてきてしまっているように感じているのは私だけでしょうか。

確かに、生徒の体調が悪いとき、ケガをしてしまったとき、それに対応するのは保健の先生の仕事の一部です。しかし、それを「当たり前」ととらえてしまうか、「お世話になってありがたい」と考えて「感謝の気持ちを表すか」、人としての品格を問われることだと思います。もちろん、生徒の皆さんだけでなく、担任としても感謝の言葉を伝えるべきだと思います。自分のクラスの生徒がお世話になったのですから。



そう考えてみると私の先輩の先生は、〇〇君のことだけではなく、「私」もきちんとお礼を言うべきだ、ということをしかりと教えてくださったのでしょ。大変ありがたいことです。

(裏面に続く)

先日、男子バレーボール部の関東大会に応援に行きました。あと1点とれば全国大会に出場か、という大接戦の結果、残念ながら本校は敗退し、3年生の引退が決まりました。

そして、その後の3年生の姿が立派でした。負けて悔しい中、応援してくれた人たちに心からお礼を言い、さらにはそれぞれの親御さんにたいしても、3年間応援してくれたこと、お弁当を作ってくれたこと等、それぞれの言葉でしっかりとお礼の気持ちを伝えていました。

バレーボールの技術以上に、人として大切なことを学んでいる素晴らしい生徒たちだと感じた瞬間でした。

生徒活躍の記録

○男子バレーボール部

- ・夏季大会 区大会 優勝
ブロック大会 2位
都大会 ベスト6
関東大会 出場
- ・シード権大会 優勝

○女子バレーボール部

- ・シード権大会 4位

○陸上競技部

- ・足立中学校陸上競技選手権大会
＜男子＞
砲丸投 本間 宇輝（3-3） 1位
4×100m
石鍋・金・中村・國分 1位
- ＜女子＞
2年100mH
森 明日香（2-3） 8位
1・2年走高跳
松橋 芽生（1-4） 8位
4×100m
鈴木七・鈴木彩・栗原・森 5位

○サッカー部

- ・シード権大会 4位

○剣道部

- ・夏季ブロック大会 女子団体 3位
都大会出場

○女子ソフトテニス部

- ・シード権大会 個人
細井 彩加（2-3）・佐藤 愛梨（2-2） 5位

○バドミントン部

- ・シード権大会 個人
小倉 麻奈（2-3） ベスト16

○バスケットボール部

- ・夏季大会 男子 ベスト8
・シード権大会 女子 5位

○吹奏楽部

- ・東京都中学校吹奏楽コンクール
A組 銀賞

○ジャグリング部

- ・フェスタ・デ・バンブー出演

○「社会を明るくする運動」

中学生標語・作文コンテスト

- 濱田 美咲（2-1） 標語・優秀賞
須賀 勇太（2-5） 標語・優良賞

○アサガオ栽培コンクール

- 檀上 大我（1-2）・山 心一郎（1-2）
団体の部・努力賞

○歯科優良生徒（3年間）

- 3-2 窪田 智 ・ 渡邊 梨李
3-3 菅原 響一 ・ 木村 茉茅
3-4 新井 唯斗 ・ 栳澤 昂

お知らせ

ご心配、ご迷惑をおかけしていましたが、本年度の音楽の先生が正式に決定しました。「篠原 清乃（しのはら・すみの）」先生です。どうぞ宜しくお願いします。

とても良い話

本校、保健体育科、1年5組担任の「野口 裕香里」先生が、8/8にご結婚なさいました。しばらくの間は「野口先生」で勤務します。

野口先生。おめでとうございます！